

【論述試験】解き方

①：事例Ⅰ・Ⅱを読み、それぞれの意図や傾向を細かくチェックしていく。これらが、問2の解答につながる。

【事例Ⅰ】

CCt主導の展開となっている / 事象・事柄・問題、第三者に焦点があたっている
CLの言葉を受け止めていない（CCtが言いたいこと、話したいこと） / 経験・感情に焦点があたっていない
CCtの価値観や主観をもとに質問している、進めている（興味、関心、決めつけ）
問題解決に誘導する流れとなっている、向かっている / 助言・提案している

【事例Ⅱ】

CL主導の展開となっている / CLに焦点があたっている / 経験・感情に焦点があたっている
CLの言葉を受け止めている / 話をひろっている / 客観視を促している

⇒センテンス毎に特徴を捉えていく。

<EX> CCtの質問はオープンか？クローズか？「伝え返し」「要約」

⇒会話の前後の流れも重要なチェックポイントとなる。

<EX> CCtの決めつけ的な問いかけをCLに否定されている、全く言語的追跡がなされていない、など。

※たまに、事例Ⅰと事例Ⅱの傾向が入れ替わる時があるので、まずはどちらのタイプになっているか、しっかり確認すること。

※事例Ⅱが良い例であっても、問2の質問は「相応しくない」場合があるので、先入観を持たず、よく読むこと！

②：問2から解いていく。断定した書き方でOK。

⇒姿勢、意図、スキル、主訴のどれかが相応しくないor相応しい

③：次に、問1を解く。

⇒「事例Ⅰは～」又は「事例ⅠでCCtは～」、「一方、事例Ⅱは～」と分けて書く。

半々くらいのボリュームがベスト。最後は「～となっている」で締めくくる。断定した書き方でOK。

⇒なるべく引用を使って、具体的になるように記入する。ニュアンスの違う同じような表現は使わない。



【論述試験】解き方

- ④：問3を解く。問3は、CCtによる主訴に基づいた問題点の「見立て」なので、断定しない
⇒主訴に基づいて解答。CLの言葉を根拠として引用
⇒「問題」とは、**ありたい自分でいられない状態、ありたい自分が脅かされている状態
経験と自己概念が不一致な状態**
⇒ **事柄が問題ではなく、事柄について本人がどう捉えているかが問題**
⇒「**こうありたい**」のに「**経験(こう)**」なってしまう、「**訴え・状況(見立て)**」となっている、という問題点
⇒自己概念（ありたい自分）については逐語記録が短いので明確でない場合も多いが、感情（特にネガティブな感情）が表出されていれば、その背景に相談者のニーズ（自己概念の影）が見えるので、それを記載することは可能
⇒問題点のパターン
(1)情報不足、知識不足、理解不足、コミュニケーション不足
＜EX＞ 就職市場・労働市場の情報不足、仕事内容や会社のキャリアパス等の知識不足、仕事理解不足、自己理解不足、原因の理解不足
(2)認知の歪み、思い込み、偏り、間違った考え、他責にしている、自分自身に関連づけ、こだわり
＜EX＞ ～であるという思い込み、自己評価と他者評価の認識のずれ、～であるべきといった偏った考え
(3)必要な行動ができていない
＜EX＞ ～への影響やリスク等を検討できていない、自己分析の不十分
- ⑤：問4を解く。CCtの考える「今後の展開」。締めくくりの決まり文句は、事前に準備も可能。
例1：CL自身の価値観に気づいてもらい、今抱えている問題にどのように向き合っていくのか、CL自身に見つけてもらえるよう支援する
例2：CLの考え方を一緒に整理して、CLがなぜそう感じたのか自身で価値観に気づいてもらい～
例3：引き続きCLに焦点を当て、経験の再現を語っていただき、相談者に寄り添いながら、自己探索を促す面談を展開し、CL自身の価値観に気づいていただき、自己実現につながるような問いかけを続けたい
例4：～について後悔しないよう納得した上で、自ら決定(選択)できるように支援する
例5：～を振り返ってもらい、再度見つめ直してもらう/改めて考えてもらう/気づいてもらう整理してもらう
例6：今後どのようにするのか、CL自身で判断できるように支援する

【論述試験】キーワード使用例

自己探索	自己探索を促す、自己探索が進んでいない	問題解決	一方的に問題解決に誘導、問題解決の方策を提示
自己理解	自己理解を促す、自己理解が進んでいない	個々の問題	個々の問題として扱い、個々の問題が明確化
自己概念	自己概念が表れている、自己概念につながるキーワード	問題	問題解決型の提案
自己判断	CCtの自己判断で	ものの見方	CCtの主観的(断定的)なものの見方
自問自答	自問自答を促す	焦点	CL/事象/事柄/第三者に焦点
経験	経験に焦点をあてる、経験を語ってもらう	感情	感情に寄り添う、感情の反映
主訴	CLの主訴は	気持ち	気持ちを置き去り、気持ちに寄り添う
価値観	価値観の押し付け、CLの価値観に共感	展開	具体的展開、CCt/CL主導の展開
主観	CCtの主観的な問いかけ、CCtの主観で～	受け止め	CLの感情を受け止め
関心	好意的関心	固有	固有の価値観(ものの見方)、〇〇固有の
共感	CLの価値観に共感して	客観視	客観視させる、客観視を促す
目標	問題解決を目標として誘導し	先入観	CCtの先入観で
背景	やりとりの背景、背景となる〇〇に焦点を当てて	共有化	感情の共有化、CLの価値観を共有化し
無条件	無条件の肯定的配慮	助言	助言を与える
追跡	言語的追跡	一般化	一般化して問題解決に導く、一般化した言葉に
信頼関係	信頼関係を構築	意識	当事者意識
独特の表現	〇〇という独特の表現より、独特の表現に焦点を当てた	意思決定	意思決定の尊重
ラポール	ラポール形成	意図	問題解決を意図して、CCtの意図で
キーワード	キーワードに焦点を当てる	当事者意識	当事者意識をもってもらう
内省	内省を促す	意味	意味の出現につながる

<参考> これまで指定語句になったキーワード

02.主観・関心・展開

03.主訴△・経験○・問題解決×・意味○

04.主訴△・経験○・問題解決×・自己探索○

05.焦点△・受け止め○・自己概念○・共感○・目標×

06.固有×・経験○・感情○・ものの見方△

07.経験○・客観視○・自己概念○・焦点△・価値観○

08.背景○・共有化○・自己探索○・ものの見方△・価値観○

09.感情○・自問自答○・経験○・ものの見方△・問題解決×

10.個々の問題△・自己探索○・経験○・助言×・一般化×

11.内省○・共感○・助言×・ものの見方×・先入観×



【論述試験】文章の使い方例

相応しくない事例の時	相応しい事例の時
CcT主導の展開となっている	CL主導の展開となっている
CcTの主観で問題解決	自己概念の影に触れ、自己探索を促している
CcTの決めつけた問いかけをCLに否定されている	CLの感情や思いに焦点が当たっており、経験の再現を促している
言語的追跡がなされていない	受容しながら、言語的追跡がなされている
閉ざされた質問が多く、間が取れていない	開かれた質問が多く、間が取れている
来談目的に沿った「かかわり」が見られない	CLの～を引き出せている
価値観の押しつけで、CLの困惑（戸惑い）を招いている	CLの内省を促し、〇〇の展開へとつながっている
個々の問題であるはずの要因を一般化して問題解決	客観視を促している
話の流れを変える、話題の転換が早い	～という新たな感情に問いかけ
共感できていない	～が深まってきた
感情(気持ち)に寄り添っていない、CLの気持ちを置き去り	～が進んできた
断定、決めつけ、一方的な、一般的な	受容（無条件の肯定的配慮）、共感、傾聴
CcTの思い込みで、CcTの自己判断で	いいかえ、要約、伝え返し、励まし
CcTの考えを押しつけている	独特の表現に焦点を当てて

■ 解答表現（問3の相談者の問題点と思われる点などで使用）

- ・見受けられる
- ・考えられる
- ・思われる
- ・うかがわれる
- ・可能性がある
- ・読み取れる

■ 減点対象となる要注意事項

- ・設問には、「相談者（略称：CL）、キャリアコンサルタント（略称：CcT）」と記載されているので、その名称・略称を使うこと。
○：CL、CcT ×：クライアント、CC ※CLと使ったら最後まで突き通すこと！
- ・解答用紙内の枠から、一文字もはみださないこと。
- ・誤字脱字、厳禁！ ○：価値観 ×：価値感
- ・なるべく、解答用紙の枠線にはすべて文字を記載すること。なお、後で消せるように、あまりつめて書かない方がベター。
- ・キーワード的な用語、CLが述べた言葉などを引用して、具体的かつ端的に、わかりやすい文章を心がける。

